

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 3 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を7月・11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる指定文化財について、連載しています。

今月は新宮山と、市指定文化財の星田村絵図を紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



新宮山八幡宮

新宮山は標高65メートルの小山で、山頂には明治時代初期まで、「新宮山八幡宮」が祀られていました。祀られた明確な時期は不明ですが、13世紀後半に石清水八幡宮の分霊を勧請したと考えられています。本宮の石清水八幡宮に対して、新しい宮という意味で、新宮山八幡宮と呼ばれるようになりました。



新宮山八幡宮の北側にあった宮寺「愛染律院」の梵鐘に刻まれた銘文(1754年)によると、室町時代中期、新宮山八幡宮の大社のそばには、6つの小社と、愛染律院をはじめ6つの寺院が建立されていたとあり、その隆盛期を知ることができます。しかし、これらの寺社も次第に衰退し、新宮山八幡宮は明治5年(1872年)に廃され、星田神社に合祀されました。現在の新宮山には、鎌倉時代の五輪塔の一部と、室町時代後期の宝篋印塔が残り、その歴史の古さを伝えていきます。

市指定文化財

星田村絵図

星田村の絵図は、「元禄十年星田村絵図」「天保十四年星田村絵図」「星田村大絵図」の3点が、平成18年に市指定文化財として登録されました。

このうち「元禄十年星田村絵図(1697年制作)」「(上写真)は、星田地区に現存する最古の絵図とされ、星田集落の中央上手には、新宮山八幡宮が描かれています。

村絵図は地図としては大まかなものですが、集落や道、田畑や河川など、当時の景観や様子が分かる貴重な資料です。



天保十四年星田村絵図
(1843年制作)



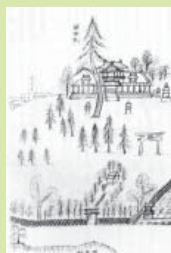
星田村大絵図
(江戸時代末期ごろ制作)

豆知識

旗掛け松

明治初期まで、新宮山八幡宮の山頂本殿前に、松の大木があり、「旗掛け松」と呼ばれていました。

慶長20年(1615年)5月5日、大坂夏の陣で東高野街道を南下した徳川家康が星田に宿営し、新宮山に本陣を置いた際に、この老松に軍旗を掛けたのがその名の由来です。



『星田名所記』より

